ファクトシート

# 『裏切りの戦略——再考・小早川秀秋』

「誰が秀秋を松尾山に入れたのか」ではなく、「本人が選んだ」としたら？ 小早川秀秋の意思決定から関ヶ原を再構成する歴史小説。

| | |
|---|---|
| 著者 | 相良 静（さがら せい／Sagara Sei） |
| Kindle 版 | 販売中、¥990（税込） |
| ペーパーバック | 販売中、¥2,200（税込） |
| 英語版 | *Betrayal as Strategy: Kobayakawa Hideaki and the Game Theory of Sekigahara*（Kindle 版、販売中） |
| 本書のページ | https://sagara-sei.com/books/sekigahara/ |
| プレス資料 | https://sagara-sei.com/books/sekigahara/press/ |
| お問い合わせ | press@sagara-sei.com |

## 概要

関ヶ原の戦いで東軍に転じた小早川秀秋を、迷った末に寝返った若者ではなく、家康の西進を確かめながら自分で場所と時機を選んで動いた大名として描く歴史小説。本編で秀秋の行動を時系列にたどり、分析編でその判断をゲーム理論で説明して、ほかの説と史料に照らして確かめる。資料編では、同時代の史料・後世の記録・研究・通説・本作の推論と仮定・創作の境界を分けて示す。

## 本書の仮説

入山を命じた同時代の文書は、東西どちらの側からも伝わっていない。本書は「誰が秀秋を入れたのか」の手前に戻り、秀秋が自分で場所と時機を選んで松尾山へ入った、と仮定する。その仮定から兵力・地形・配置・家康の進み具合を組み直すと、去就を明かさなかったことも、松尾山へ入ったことも、開戦とともに大谷の隊へ向かったことも、家の存続を第一に置いた一つの意思決定として説明でき、秀秋は局面ごとに的確な判断を重ねた戦略の天才として読める。

## 本書の方法

史料が残した事実を変えず、史料だけでは確定できない意思決定を推論する。

> 史料で確かめられる出来事は変えない。採る研究の解釈は資料編に明示する

> 史料で確定できない所は、意思決定のモデルとして扱い、置いた仮定を資料編に書き出す

> 「問鉄砲」は同時代の史料に見えず、後世の創作とする研究がある。本書は採らない